

ASIAN FLEET

◆シナリオ4「Invasion Taiwan」◆

文／篠原史也
『アジアン・フリート』デザイナー

シナリオ4「Invasion Taiwan」は中国軍の台湾侵攻を扱ったシナリオです。なお、中国側は奇襲効果獲得のため、大規模な航空部隊の前進拠点への配置転換を行わずに、ブラフとも恫喝とも取れる海軍艦艇の近海への展開のみを行ったものとしています。

勝敗はシナリオ終了時の勝利得点で決まりますが、勝利得点を得るには、敵ユニットの除去、敵基地の破壊だけではなく、非西側（以後中国側）はゲーム終了時点で自軍の揚陸艦や上陸船団ユニットを台湾本土ヘクスに存在させていたり、台湾本土の港湾から自軍の限定索敵ゾーンを通過しないヘクス列を、連合国側がマップ外まで設定させないことにより封鎖による勝利得点を得ることができます。

一方の西側連合国側（以後台湾側）は、ゲーム終了時に台湾海峡エリアに米空母機動部隊を存在させることで勝利得点を得ることができます（加えて、空母機動部隊の艦艇に巡航ミサイル弾薬が残っていれば更に点数を稼げます）。また、中国本土に存在する弾道ミサイル基地を破壊することで点数を得ることができますので、防御一辺倒ではなく、米空母機動部隊到着前でも隙を見ての中国本土への攻撃することも重要です。

中国側プレイヤー：筆者

主にWW1やロシア内戦、WW2末期戦の作戦級が守備範囲だが、現代テーマの作戦級も好んでプレイしている。最近では念願の『Third World War (GDW／HJ)』の『セントラルフロント』や『ペルシアンガルフ (GDW／HJ)』の『砂漠の嵐作戦 (天下布武)』、『イランイラク戦争 (S&T)』がプレイできてご満悦である。

台湾側プレイヤー：S氏

ガレー船から戦艦、ミサイル駆逐艦まで軍艦ならばこよなく愛する海軍狂。

主としてWW1ものをプレイするが、火器のあるゲームならほとんどこいでWWII現代戦ものまで手広くプレイしている。最近のおすすめは『Ardennes'44 (GMT)』、『Air&Armor (WE)』である。

初期配置はシナリオで指定されている範囲への配置になりますが、配置時に各プレイヤーは自軍艦艇を「タスクフォース」もしくは「タスクグループ」というグループとして配置することが可能です。『アジアンフリート (AF)』ではグループに所属していない艦艇は戦闘時に不利な修正を受けることになります。グループの編成は移動フェイズの開始時と終了時に行えますが、初期のグループ編成も重要です。

これに反して、潜水艦ユニットは他のユニットとスタックとして共に行動することはできません。このため、単艦で存在している場合にも不利な修正を受けることはありません。

今回は天候を除く上級ルールと選択ルールを使用しています。選択ユニットは、中国側がAWACSユニットを追加しています。

両軍の初期配置時の海軍艦艇の編成は以下の通りです。

台湾軍配置／編成

TF1: 高雄 (2848)
FFx8: 「TIANDAN」「CHANGCHIEN」「PANCHAO」「TZUI」
「CHENGHO」「CHENGKUNG」
「CHIKUANG」「YUEHFEI」
CSx1: 「WUYI」

TF2: 高雄 (2848)
PCx4: PCS1、PCS2、PCS3、PCS202

TF4: 基隆 (2743)
FFx6: 「WUCHING」「CHENDU」「DIHUA」「KUNMING」「SINING」
「KANGDING」
PCx1: 「PCS201」

TF6: 蘇澳 (2845)
DDx4: 「ZUOYING」「MAKUNG」「SUAO」「KEELUNG」
FFx8: 「HWAIIANG」「NINGYANG」「YIYANG」「HAIEYANG」
「LANYANG」「FENGYANG」「FONGYANG」「CHIYANG」

中国側配置／編成

TF1: 3444
DD: 「TAIZHOU」「FUZHOU」「HANGZHOU」「NINGBO」
FF: 「LUSHUN」「MAAANSHAN」「WENZHOU」「MAINYANG」
「JIAXIN」「SANMING」「PUTIAN」
CS: 「QIANDAOAU」

TF3: 2153
DD: 「SHENZHEN」「HAIKOU」「GUNGZHOU」「LANZHOU」
「WUHAN」
FF: 「YUX」「XIANGFAN」「YICHANG」「YULIN」
CO: 「South」

TF5: 舟山 (2338)
FF: 「ANQING」「TONGLING」「HUAIBEI」「HUAINAN」
「LIANYUNGANG」
CO: 「FLOT2」「FLOT3」
CS: 「WEISHAMHU」



■ゲームターンの手順■

戦略サイクル(AMターンのみ)

- 天候決定フェイズ(上級ルール)
- 増援フェイズ
- 潜水艦モードフェイズ(上級選択ルール)
- 戦略航空作戦フェイズ
 - 割り当てセグメント
 - 迎撃セグメント
 - 撃退セグメント
 - 機雷セグメント
 - AWACS配置セグメント
 - 戦略索敵セグメント

活動サイクル

- CAPフェイズ
- 掃海フェイズ
- 補給フェイズ
- 局地索敵フェイズ
- 活動フェイズ
 - 第1活動セグメント: ダイスを振り、第1プレイヤーを決定する。
 - 第2活動セグメント
 - 第3活動セグメント
- 局地索敵マーカー離脱フェイズ
- CAP帰投フェイズ

ターミナルサイクル(夜間ゲームターンのみ)

- 燃料フェイズ
- 修理フェイズ
- 戦略航空作戦任務終了フェイズ
- 戦略索敵離脱フェイズ
- 勝利得点計算フェイズ
- ターンマーカー移動フェイズ

台湾軍の初期配置

高雄 (2848)

4 TW 8	4 TW 8	4 TW 8	4 TW 8
3 1 1	3 1 1	3 1 1	3 1 1
4 FF 3 3	4 FF 3 3	4 FF 3 3	4 FF 3 3

5 TW 25	5 TW 25	5 TW 25	5 TW 30
N PCS 0	N PCS 0	N PCS 0	N PCS 0

基隆 (2743)

4 TW 8	4 TW 8	5 TW 30	4 TW 8	4 TW 8
3 1 1	3 1 1	3 1 1	3 1 1	3 1 1
4 FF 0	4 FF 0	N PCS 0	4 FF 0	4 FF 0

蘇澳 (2845)

4 TW 8	4 TW 8	4 TW 8	4 TW 8	4 TW 8	4 TW 8
2 2 2	2 2 2	2 2 2	2 2 2	2 2 2	2 2 2
4 FF 0	4 FF 1	4 FF 1	4 FF 1	4 FF 1	4 FF 1

中国軍の初期配置

TF1 (3444)

4 CH 14	4 CH 14	4 CH 14	4 CH 14	4 CH 8	4 CH 8
3 0 6 4	3 0 6 4	3 0 6 4	3 0 6 4	3 0 6 4	3 0 6 4
3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0

TF3 (2153)

4 CH 8	4 CH 8	4 CH 8	4 CH 8	4 CH 8	4 CH 8
3 0 6 4	3 0 6 4	3 0 6 4	3 0 6 4	3 0 6 4	3 0 6 4
3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0

TF5 船山 (2338)

4 CH 8	4 CH 25	4 CH 25	3 CH N
2 0 6 4	2 0 6 4	2 0 6 4	2 0 6 4
3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0	3 FF 0

台湾側:

全般方針

米軍来援までいかに中国に対し脅威でありつづけるかが重要である。

- 水上艦艇: 敵にVPを与えないため、消極的行動を旨とする。特に敵水上艦艇に対し艦隊決戦を挑むのは、お互い消耗戦となり、短期的には台湾側に不利なため、港湾内に留まり機を見てのASW部隊による一撃離脱を基本とする。
- 航空機: 弾道ミサイル攻撃の結果で使用可能な航空部隊数が変化するので、戦略航空戦での勝利は目指さず、CAPを重視する。

中国側:

米軍に対しては、潜水艦による遅滞戦術ぐらいしか対応方法が無いので、米軍到来までVPを稼ぐために、可能な限り台湾封鎖を継続し、機を見て台湾側に打撃を加えVPを稼ぐ必要がある。序盤に十分なVPを稼いでしまえば、逃げ切りは可能である。

また、強力な台湾のCAP網を破るために、航空基地を破壊する必要があるが、弾道ミサイルの当たり具合によって台湾側のCAPの戦力の幅が出てくるので、弾道ミサイルとH6H爆撃機の巡航ミサイルの合わせ技で損害を与え、CAPを飛ばせる基地の数を削っていくしかないだろう。

第1ターン

ターンの手順は別表の通りですが、第1ターンはAMターンなので戦略サイクルが行われます。このプレイでは天候及び潜水艦モードのルールは使用していないのでこの手順は飛ばします。

続いて戦略航空作戦フェイズですが、このシナリオでは特別ルールにより弾道ミサイル攻撃(中、短距離の地対地ミサイルによる攻撃を表しています)が行われるので、戦略航空任務への航空機の配置を行う前に弾道ミサイル攻撃の解決が行われます。

弾道ミサイル攻撃の結果により航空基地に損害が出た場合には、その航空基地は夜間ターンまで使用不能となり、その基地の航空ユニットは一切使用できなくなるので、攻撃結果は後の戦闘に大きな影響を与えます。

このターンの弾道ミサイル攻撃は、ミサイル基地数と同数の6回の判定が行われましたが、清泉航空基地(2646)が1損害を受けたただけでした。

ルール解説

中国側は、マップ上の損害を受けていないミサイル基地1カ所ごとに1回、攻撃力「16」(命中率40%)で射程内の台湾側基地ヘクスを攻撃できます。なお、同じ目標を2回攻撃したり、複数の基地の攻撃力を合計して1箇所を攻撃することはできません。

ちなみに、台湾側の想定では、中台紛争が発生した場合、航空基地の半分がミサイル攻撃で破壊される恐れがあります。

次に戦略航空作戦への割り当てが行われます。

戦略航空作戦フェイズでは、お互いが配置ディスプレイを見せずに、使用されるゾーン毎に、戦略航空作戦に使用する航空機を割り当て、終了後、同時に公開します。

もし、同じゾーン内に迎撃任務の航空機が存在した場合には、迎撃任務の航空機同士で空対空戦闘が行われ、生き残った航空ユニットはそのゾーン内の他の任務に就いている敵側の航空機を攻撃できます。

このターンの戦略航空作戦への割り当てでは、両軍とも台湾ゾーンのみに航空機を割り当てました。割り当て兵力は以下の通りです。

中国側

台湾ゾーン:

迎撃任務: Su30x1、J11x1、J7Ex1

偵察任務: A50 (AWACS)

台湾側

台湾ゾーン:

迎撃任務: F16x2、F5x2

偵察任務: S2x2、RF16x1

このシナリオでは、西側にAWACSが登場しないので、中国側は航空優勢を得るために10VP分のペナルティを支払ってでもAWACSの投入に踏み切っています。

ルール解説

AWACSユニットは、通常基地ヘクスのみが行えるCAP任務を、AWACSユニットが存在するヘクスで実施させられます(裏面に警戒範囲を持っておりそのヘクス数がCAP範囲となります)。このため、基地のCAP範囲内から外れた地域にもCAP網を敷くことができます。なお、AFでのCAP任務の効果は、移動中の活性側航空部隊を、各CAP任務のCAP範囲内の任意の地点で攻撃することができるという強力なものです。

また、自軍AWACSの警戒範囲内で行われる空対空戦闘では、常に攻撃側となることができ、戦闘解決のダイス目にも「+2」の修正を受けられます。加えて、ターンの途中で行動していない航空ユニットをAWACSでのCAP任務に追加したり、AWACSにてCAP任務に就いているが実際には空対空戦闘を行っていないユニットに他の行動させられるなど、柔軟な運用が可能です。

このように、極めて強力な効果を持つAWACSユニットですが、これは湾岸戦争以降の大規模な航空作戦に於いては個々の航空機の性能よりも、空中早期警戒管制機を用いた現状把握と部隊運用による戦力倍加効果の影響が大きいことを反映しています。

例えて言えば、片方のプレイヤーはブラインドサーチシステムで限定した範囲しか見えない状況で駒を動かさなければならぬのに、片方のプレイヤーはマップ上の両軍のユニットの位置や戦力の値を確認して駒を動かすことが可能な状況を思い浮かべて頂ければよいでしょう。

続いて迎撃フェイズの空対空戦闘が行われます。

ここでは、同じゾーン内の迎撃任務欄に置かれた両陣営の航空ユニット間で空対空戦闘が行われます。

このシナリオでは、長距離空対空戦闘の選択ルールを使用しているので、通常空対空戦闘の前に長距離空対空戦闘が行われます。原則として長距離空対空戦闘は同時解決ですが、今回の場合には、片方の陣営にのみAWACSユニットがいるので、AWACSを保有する陣営のみが長距離空対空戦闘を行えます。長距離空対空戦闘の戦闘解決はファイアーパワー方式です。

中国側で長距離空対空戦闘能力を持つユニットはSu30だけなので15空対空力の蘭を用いて判定が行われます。出目は「3」だったので、台湾側への損害はありませんでした。

続いて通常空対空戦闘の解決が行われます。通常空対空戦闘は比率で解決されます。通常は攻撃側をダイスで判定しますが、今回の場合には、片方の陣営のみにAWACSが存在するので攻撃側は自動的に中国側となります。

中国側の空対空力はSu30の「15」、J11の「13」、J7Eの「5」の合計「33」、台湾側の空対空力はF16の「11」が2個とF5の「6」が2個の合計「34」であり戦闘比は「1:2」となります。中国側は更にAWACSの効果による「+2」のダイス目修正が受けられます。

出目は「1」で修正後の目は「3」、戦闘結果は「1r/0」となります。中国側は1ステップ分の損害を受けた上に、中国側の迎撃任務の航空機は全て同じゾーン内の帰投ボックスに置かれます。なお、空対空戦闘ではステップロスを受けるユニットは相手側が選択します。この戦闘ではステップロスは「J7E」に割り振られました。

続いて撃退セグメントとなります。ここでは、先の迎撃セグメントで生き残った迎撃任務の航空ユニットが、同じゾーンに存在する相手側の迎撃任務以外の任務に付いている航空ユニットをまとめて攻撃します。もちろん、台湾側のF16とF5ユニットで中国側の虎の子AWACSが攻撃されます。

撃退セグメントでの空対空戦闘は攻撃側、防御側の戦闘比に関わらず専用の「撃退」蘭で行われます。帰投だけの結果や、そのまま任務を行える確率も3割あるのですが、ここでの出目は「6」で「0/1r」の結果となり、1ステップしか持たない中国側のA50ユニットは除去されます。これで中国側はAWACSの除去による7点のペナルティを受けます。本来ならば、この後のAWACS配置セグメントにAWACSユニットのマップへの配置が行われるのですが、今回は撃墜されてしまい配置は行われません。

撃退を行った航空ユニットは同じゾーン内の帰投ボックスに移されます。

次に、戦略偵察セグメントが行われます。

台湾側は偵察任務を行っている航空ユニットを用いて戦略偵察を試みます。水上艦艇への索敵は全てのユニットが行えるので、RF16を使って、南海艦隊のTF3に戦略索敵マーカーを起きます。続いてASW力を持つS2を使用して、潜水艦に対する戦略索敵を試みます。潜水艦への戦略索敵はASW力を持つユニットのみ試みられ、判定に失敗すると試みた航空ユニットは使用済みとなってしまうので効率は良くありませんが、成功すると夜間ターンまで索敵状態が持続しますので非常に効果的です。

台湾側はS2ユニットは2個を使用し潜水艦に対する判定を2回行いましたが、残念ながら失敗してしまいました(中国のSNに対する成功率は4割です)。偵察を行った航空ユニットは同じゾーン内の帰投ボックスに移されます。

偵察後、戦略航空ディスプレイ内には戦術支援任務の航空ユニットだけが、帰投以外の蘭に残ることになります。戦術支援任務のユニットは、続くPMターンまでの任意の自軍活動セグメントで使用可能です。なお、戦略航空任務に就いている航空ユニットは、PMターンの帰投フェイズまで基地ヘクスに戻りません。そのため、そのゾーンから来ているかを示すために、ディスプレイの各ゾーンの帰投ボックスには出発ゾーンからの距離を示すボックスと、ゾーン名の表記がありますので、該当する距離ボック

ス内の出発したゾーンに向けてユニットを置いておきます。出発したゾーン内ならばどの航空基地にでも戻れますが、出発した基地以外に戻ると続く5ターンの間行動できなくなるので、戦略航空任務に就く航空ユニットが出発した基地をメモしておくことをお勧めします。

これで戦略サイクルが終了します。

次に活動サイクルを実施します。活動サイクルの最初に各航空基地の航空ユニットをCAP任務に就かせる事ができます。これは相手側の航空ユニットを迎撃するために使用されるもので、台湾側は使用可能な全航空基地にありつたけの航空ユニットをCAP任務に投入し、中国側も航続距離が長いものを除き主要な地域をカバーする様に各基地にCAP任務を行わせます。

CAP任務

中国側：

塩城 (2037) J8 x1、如皋 (2136) J7x1、長興 (2039) J7 x1、衢州 (2241) J7E x1

南昌・向唐 (2045) J11 x1、J7 x1、樟村 (2046) J7E x1、汕頭 (2349) J7 x1

広州 (2150) J7 x1、佛山 (2051) J8B x1、寧波 (2239) J7E x1

台湾側：

台南 (2747) FCK1 x3、新竹 (2645) Mir2 x2、清泉崗 (CCK: 2646) FCK1 x2

嘉義 (2746) F-16 x2、佳山 (2846) F-16 x2、馬公 (2647) FCK1 x1

ルール解説

AFではこの活動サイクル中にユニットが行動を実施します。活動サイクルは3回の活動セグメントからなり、各活動セグメント中に各陣営は1回ずつ、任意のタイプのユニットを活動させられます。ユニットのタイプには「水上艦艇」「潜水艦」「航空機」の3種類があり、各活動サイクル中にそれぞれ1回行動させられます。

各タイプの活性化の順番はプレイヤーにゆだねられています。各セグメント毎の活性化の順番はダイス決めるので、順番によっては連続して活性化を行える可能性もあります。

このように、活動セグメントでは各活動セグメント毎に先行プレイヤーを決定し、各プレイヤーはそのセグメントに実施する行動タイプを宣言して活性化を行い、これを3回繰り返すことで活動セグメントを解決します。

第1活動セグメント(先攻は中国)

第1ターンの第1活動セグメントの先行はシナリオの特別ルールにより中国側になります。加えて、中国側は特別ルールにより、中国のスパイ網の効果を現す判定を行います。

ダイスを1個振り、出目の半分だけ台湾側のグループやユニットの上に局地偵察マーカーを置くことができます。ここでは「8」が出たので、高雄を除く台湾の港湾ヘクスと潜水艦「HAIHU」に局地索敵マーカーが置きます。

中国側第1活動セグメント 活性化「航空機」

中国側は「航空機」の活性化を宣言し航空ユニットの行動を実施します。

中国側は威力偵察がてら、2039のJ10を活性化させ、協同航空作戦を使用して2139のJH7をスタックに加え、1損害を受けている2645の台湾軍航空基地へ向かいます。台湾側は移動中のこのスタックを、ヘクス2644でCAP任務にて攻撃します。2644は台湾側の全航空基地のCAP範囲内なので、全てのCAP任務を攻撃に参加させられます。台湾側は必勝を期すために全CAP任務を攻撃に参加させます。しかし、この決断が悲劇を呼ぶのでした。

ルール解説

CAP任務は各航空基地及び航空母艦、AWACSユニットの存在するヘクスで行えます。各CAP任務には4ユニットまでの航空ユニットを参加させることが可能で、そのCAPのCAPマーカーが置かれているヘクスから4ヘクス以内で移動中の敵航空ユニットを攻撃できます。なお、CAPマーカーが置かれているヘクス自体では、そのヘクスのCAP任務は攻撃できません。

加えて、非活性側のCAPが行われるヘクスが活性側のCAP任務のCAP範囲だった場合には、活性化側のCAPもその空対空戦闘に参加できます。このため、軽い反応を見るための移動が大空戦を誘発することもあります。

CAP任務が攻撃する場合、そのCAPが複数の航空ユニットで構成されていたならば一部だけを攻撃に参加させる事はできず、全ユニットが参加するか全く参加しないかのどちらかを選択しなければなりません。また、同じヘクスが複数のCAP任務のCAP範囲だった場合、全てのCAPが攻撃に参加可能です。今回の台湾側は慎重にCAPを行うヘクスも全CAPが参加可能なヘクスを選んでいきます。

このCAP任務による空対空戦闘に参加したのは以下の通りです

台湾側：

F16 x4、Mir x2、FC1 x4 空対空力合計「102」

中国側：

J10x1、JH7 (対地任務) x1 空対空力合計「11」

最初に長距離空対空戦闘が行われます。台湾側はF16とミラージュ2000 (Mir2) が長距離空対空戦闘力を有しているので「66」戦闘力での攻撃となります。出目は「5」で中国側に1ステップの損害が出ます。中国側はJz10が長距離空対空戦闘力を持っているので、「10」戦闘力で攻撃します。出目は「8」で台湾側にも1ステップの損害が出てしまいます。

長距離空対空戦闘での損害はランダムで決定されますので、両軍ともダイスを振って損害を受けるユニットを決定します。結果として台湾の「Mir2」と中国の「JH7」がそれぞれ1ステップロスします。

ステップロスを受けたことにより、両軍の空対空力は、台湾「97」、中国「11」に変化します (中国側のJH7は対地任務なので空対空力は「1」になっており、ステップロスを受けても空対空力は変化しません)。

戦闘比は8:1ですが、戦闘結果表を振り切っているため戦闘結果表のCAP列の最大比「3:1」での解決となります (CAPは、戦略航空作戦時の戦闘結果に対して1コラム分攻撃側に有利です)。出目は「0r / 0r」で両軍掃投となります。このため、台湾上空にはCAPが存在しなくなっていました。

中国側は好機到来とばかりに、CAP任務のない台湾の基地に対して空襲します。CAPによる迎撃が無いので護衛の航空機を同行させる必要が無く、航続距離が足りる航空機を全て対地任務にして爆撃を行わせます。合計4波の爆撃によりCCK基地が破壊され、基地に存在していたFCK1ユニット2個も除去されます。なお、爆撃時の対空砲火によって中国側もH6F爆撃機が1ステップの損害を受けました。

台湾側第1活動セグメント 活性化「潜水艦」

第1活動セグメントの台湾側の行動は「潜水艦」でした。台湾側は索敵マーカーを置くために潜水艦ユニットを隣接可能な中国側TF1に隣接させます。なお、シナリオの特別ルールでアメリカ軍の潜水艦はアメリカ軍の空母機動部隊が登場するか、攻撃を受けるまでは中国軍ユニットを攻撃できませんので、暫くは索敵に勤めることになります。

第2活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第2活動セグメント 活性化「航空機」

台湾側は、差し迫った攻撃対象が無いことと、航空機のほぼ全力をCAPに上げていたこともあり、艦艇を行動させると中国側にフリーハンドを与えることになるので実質のパスとなる「航空機」を選択しました。実際、航空フェイズに活動可能な航空ユニットはごく少数なので、実質的な活動は行われません。

中国側第2活動セグメント 活性化「潜水艦」

中国側は台湾本土封鎖のために潜水艦を移動させます。台湾を二重の遠巻き限定索敵ゾーンで覆うことに成功します。

この結果、台湾側のASW(対潜水艦)戦闘で最低でも2隻の潜水艦を失わなければ、台湾封鎖によるVPを得る目処が立ちました。

なお、台湾北部に展開したキロ級より基隆(Keelung)にいた台湾軍TF4をSSM攻撃します。港湾に対してのSSM攻撃になるため、港湾の近接対空力が増えられるので成功の確率は少なかったのですが、FF WUCHINGをステップロスさせました。

第3活動セグメント(先攻は中国)

中国側第3活動セグメント 活性化「水上艦艇」

南海艦隊のTF3が北上がてら、台湾軍の潜水艦「HAIHU」を攻撃して移動します。

この攻撃により、TF3には西側の局地索敵マーカーが乗ります。TF1は台湾と距離を保ったまま南下、TF4は船山を出航し、中国海岸沿いに味方CAPの傘の下を台湾海峡方面に南下します。

台湾側第3活動セグメント 活性化「水上艦艇」

ここで、台湾側はチャンスを見逃しませんでした。前の活動セグメントで中国側は行きがけの駄賃に潜水艦を攻撃しましたが、潜水艦を除去できなかったために局地索敵マーカーが置かれました。中国側も台湾本土からの距離を意識していましたが通常の艦艇の移動力「4」を想定して隣接はされない距離を取っていました。隣接されなければTFは中華イージスの旅洋II型を含むのでフリゲート数隻程度のSSM攻撃には対処可能と考えていました。しかしながら、中国側は高雄にミサイル艇部隊が存在することを考慮に入れていませんでした。もちろん、ゲーム中にスタックの中やTFの中身は自由に見ることができるので中国側の慢心が引き起こした状況です。

台湾側は、ミサイル艇のみのスタック4個(5移動力)で中国側TF3に隣接し、105火力でSSM攻撃します。SSM攻撃の場合には隣接ヘクスに自軍水上もしくは潜水艦ユニットが存在しないと不利な修正を受けるので、それを防ぐために隣接ヘクスから攻撃します。

中国側がTF内の艦艇の順番を決めた後に台湾側はダイスを1個振り、攻撃目標にできる艦艇を決定します。出目が偶数だったために攻撃目標はTFの上半分から選択することになります。スタックの上半分には中国自慢の旅洋II型が含まれており、台湾側は「HAIKOU」に最大の72火力を、残りを「SENZEN」に33火力を割り振ります。中国側はヘクス内の艦艇の広域AA力と攻撃目標となった艦艇の近接AA力、更に目標となった艦艇の1つ後ろの艦艇の近接AA力を合計して防御戦闘を行えます。この際に各艦は1度しか近接AA力を足しませんので、順番的に連続した艦艇を目標にした方が効率的です。

台湾側は対空火力を余分に足され無いために、抜け目なくHAIKOU、SENZENと連続した艦艇を目標にしています。

この防御戦闘での中国側の総AA力は「24」となり、TFの修正で出目に「+2」とイージス艦による「+1」の修正が加えられます。出目は「5」で最終的な目は「8」になります。24火力でダイス目の防御欄の「8」なので防御戦闘の結果は「6」になります。この値が攻

撃側の出目へのマイナス修正となります。

台湾側の出目はHAIKOUに対する攻撃では「6」、SENZENに対する目は「4」でした。このため修正後は「1」と「-2」となり、戦闘結果はそれぞれ「4」と「1」となります。結果、HAIKOUの防御力は「3」なので防御力以上の損害を受けHAIKOUは除去されます。SENZENの防御力は「3」なので、防御力の半分よりも損害が小さくSENZENは損害を受けませんでした。

戦闘の結果、中国軍はイージス能力を持つ虎の子の内の1隻を失います。

この他に、台湾側はASW用にTFを編成し直し、TF1を分割しTF3を分派しました。

この結果台湾側のTFは以下の様になります

TF1:「TIANDAN」「CHANGCHIE」「PANCHAO」「TZUI」「WUYI」(CS)

TF3「CHENGHO」「CHENGKUNG」「CHIKUANG」「YUEHFEI」

また、SUAOのTF6からも、ASW部隊としてTF5を分派します。

TF5:FF:「CHIYANG」「LANYANG」「FENGYANG」「FONGYANG」

TF6:DDx4:「ZUOYING」「MAKUNG」「SUAO」「KEELUNG」

FFx4:「HWAANG」「NINGYANG」「YIYANG」「HAEYANG」

勝利ポイントフェイズ

第1ターンの勝利得点損害

中国側:航空基地破壊x1=5VP、航空機破壊x2(FCK1x2)=10VP

台湾封鎖=10VP

台湾側:艦艇撃沈(DD「HAIKOU」)=-3VP、

航空ユニット除去=-7VP(A50)

従って、1ターン終了時のVPは+15VPとなります。



両プレイヤーコメント

台湾プレイヤー:第1ターンは両者に驚く要素が盛りだくさんであったが結果的に見れば落ち着くところに落ち着いた感がある。今回一部CAP部隊をおろし、F-16×1、FCK×3の攻撃隊を編成した。射程内に索敵済水上部隊に用いる予定。1ターン末の潜水艦索敵がうまくいった。今回の焦点は我が水上部隊による対潜掃討だろう。とにかく艦隊決戦だけは避けよう。

中国側プレイヤー:飛行場は1カ所つぶせたが、今回は前ターンの様に上手くいかないだろう。何とか台湾側の艦艇をつぶすために一戦交えなければならない。最悪、思わぬ損害を受けた南海艦隊は捨て駒にしてでも台湾艦隊を引っ張り出さなければ。

第2ターン

CAP配置

中国側:

塩城 (2037) J8 x1、如皋 (2136) J7 x1、長興 (2039) J7 x1、衢州 (2241) J7E x1
南昌・向唐 (2045) J11 x1、J7 x1、樟村 (2046) J7E x1、汕頭 (2349) J7 x1
広州 (2150) J7 x1、佛山 (2051) J8B x1、寧波 (2239) J7E x1

台湾側:

新竹 (2645) Mir2 x2、清泉崗 (CCK:2646) FCK1 x2、嘉義 (2746) F-16x2、馬公 (2647) FCK1 x1

第1活動セグメント(先攻は中国)

中国側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

中国側はTF1で台湾軍のTF3をSSM攻撃します。結果、「CHENGHO」を撃沈「CHENGKUNG」に損害を与えます。

また、前回攻撃を受けたミサイル艇部隊に対してTF3がSSM攻撃を行った後、台湾海峡方面に北上します。戦闘の結果、PCS2及び3が除去されます。

ここで、中国軍は奇策を打ちます。台湾海峡沿いに南下していたTF5が台湾海峡ゾーンに突入して新竹飛行場に隣接、基地を目標に近接戦闘を行います。基地に対する近接戦闘は各艦艇の近接戦闘力からSSM力を引いた値を使用することになりますが、敵の艦艇に対して行う場合とは異なり、一方的に撃たれる可能性も撃ち返される可能性も無いのですが、台湾の基地の近接AA力が高いことと、台湾側の航空ユニットの懷に飛び込むことになるので、報復攻撃を受ける可能性が高く諸刃の刃と言えます。

この場合、TF3のSSM力分を抜いた近接戦闘力の合計は「20」でした。近接戦闘はSSM戦闘の手順で行われますが、基地に対する近接戦闘では防御戦闘は行われず、攻撃側の出目に「-3」の修正が与えられるだけです。攻撃側の目は「9」で修正後に「6」となり、戦闘結果は「4」になります。基地への損害は戦闘結果が「4~8」で「1」損害、「9~10」で「2」損害、「11」で即破壊となりますので。新竹基地は「1」損害を受け。夜間ターンまで航空機を使用することができなくなります。

台湾側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

飛行場を潰されることは台湾側にとって死活問題なので、台湾側は方針を一転し水上部隊による反撃に出ます。

- ・TF2が台中沖の中国側TF3をSSM攻撃し、FF「LANGHOU」を除去します。
- ・TF3が前のターンにSSM攻撃を行い局地索敵マーカーを置か

れたSS322をASW攻撃しステップロスさせます。

- ・TF5が付近の潜水艦小艦隊EastFlot1をASW攻撃し除去します。TF5はASW 戦闘後移動し、移動力確保の為に中国側TF1から分離され舟山に向かっていた補給艦「QINGDAO」をSSM 攻撃し除去します。
- ・TF6が中国側TF5をSSM攻撃して「LIANYUGANG」を除去、「HUINAN」に損害を与えます。
- ・TF4が再度中国側TF5をSSM攻撃しますが、効果はありませんでした。

ターン初めの方針に反して、台湾側は航空基地への近接戦闘(艦砲射撃)への対応として水上艦隊で航空基地を攻撃した中国側のTF5を集中攻撃します。なお、攻撃に参加した艦艇は2つのTFに分かれていた上に、ノックス級のSSM弾薬が2ボックス分しかないので高いSSM力での攻撃することはできず、防御力の小さい中国軍のフリゲートを目標にし、確実に艦艇を減らします。

第2活動セグメント(先攻は中国)

中国第2活動セグメント 活性化「潜水艦」

このセグメントでは、港湾の外に出てきた台湾艦隊を、台湾封鎖を崩さない程度に積極的に潜水艦で攻撃します。なお、雷撃で港湾ヘクス内の艦艇を攻撃する際には、攻撃の出目に、防御修正に加えて「-3」修正が加えられるので、弾薬数が限られる潜水艦での攻撃はお勧めできません。

- ・SS367(キロ級)がTF1をSSM攻撃、失敗
- ・SouthFLOT1がTF2を雷撃、PC202を除去
- ・SS314がPCS1を雷撃、除去
- ・SS323がTF1を雷撃、TINDANに損害を与える
- ・SS324がTF3を雷撃、CHINKUANGに損害を与える。

台湾側第2活動セグメント 活性化「航空機」

TF5への集中攻撃とミサイル基地への攻撃を試みます。

- ・嘉義(:2746)よりの攻撃隊(FCK1 x1)がTF5を爆撃、FLOT2を除去
- ・嘉義(:2746)よりの攻撃隊(FCK1 x1)がTF5を爆撃、FLOT3を除去
- ・佳山(:0956)(F16 x2:対地任務 x1、戦闘任務 x1)と嘉義(FCK1 x1:戦闘任務 x1)の協同航空攻撃が2345を爆撃のために移動し中国側CAP(J7 x1、J7E x1)とのCAPの戦闘で「0R/0R」で両軍帰投。

このように、台湾側は水上艦艇で減らした中国軍TF5に対して航空攻撃します。中国艦隊の対空力が極めて低い上に、中国側CAPの範囲ではないので、1ユニットずつの護衛無しの航空ユニットが爆撃を行います。航空攻撃によりTF3は主力のコルベット部隊(実際は旧式駆逐艦とフリゲートの戦隊です)を全て除去します。これで中国側TF5は基地攻撃の主力であったコルベット部隊を失い、効果的な対地攻撃能力を損失しました。

加えて、総力を上げてミサイル基地への攻撃を決行しますが、旧式機中心の中国側CAPの迎撃を受け、両者損害無しで帰投することになります。

第3活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第3活動セグメント 活性化「潜水艦」

- ・HAIHUがTF3攻撃、失敗
- ・HAILOUがTF1攻撃、失敗

台湾側の潜水艦は手近な中国軍TFを攻撃します。攻撃自体は失敗ですが限定索敵ゾーン内に中国軍TFを捕らえているので索敵マーカーを保持できます。

中国側第3活動セグメント 活性化「航空機」

- ・JH7 x2、EW x1の協同航空攻撃で、TF5をSSM攻撃(40)、Fongyangを撃沈
- ・Su30MKK2がTF5をSSM攻撃、Fengyangを撃沈。H6Hユニットx2が2波に渡り、佳山(2846)へ巡航ミサイル攻撃。1打撃を与える。

中国側は台湾海峡に集中していた台湾海軍部隊を攻撃します。足の長いEW機が他の航空機を拾っていく形で協同航空攻撃を行います。EW機が参加すると攻撃側に有利な修正が付くので、その甲斐もあってか、2波に渡る航空攻撃で台湾軍のTF5は2隻の艦艇を失いました。

勝利ポイントフェイス

第2ターンの勝利得点損害

中国側：艦艇撃沈(FF「CHENGHO」「Fongyang」「Fengyang」、PCS「PCS1」「PCS2」「PCS3」「PCS201」) =21VP
台湾封鎖 =10VP

台湾側：艦艇撃沈(FF「LANGHOU」「LIANYUGANG」、SS「EastFlot1」「SS322」CO「Flot2」「Flot3」CS「QINGDAO」) =6VP

従って、終了時のVPは+40VPとなります。



プレイヤーコメント

台湾プレイヤー：前ターンは当初の想定に反して対艦戦闘をしてしまったが、飛行場が艦砲で破壊されかねない現状では仕方ないだろう。台湾海峡内でありCAPでもあることから、大きな問題にはならなかったが、無理な進出は避けつつASWを継続しよう。防空に関しては基地に2ダメージを受けたが、夜間であるため、SRBM攻撃隊を編成しよう。前ターンでノックス級のSSMを消費してしまった。折を見て補給を行おう。

中国プレイヤー：艦砲射撃任務の部隊が壊滅してしまったが、台湾海軍を海峡側に集中させ損害を与えることに成功した、海上封鎖を破る為のASWに戦力を割かれなければならないにも、本土への攻撃を継続しなければならない。あとは、次ターンに米軍が出てこないことを祈るのみである。

第3ターン

第3ターンは夜間ターンなので、移動力に■の印が付いている昼間戦闘機は行動できません。そのため、一時的に中国側のCAP網が低下します。

CAP配置

中国側：

衢州(2241) J7Ex1、樟村(2046) J11x1、J7Ex1、佛山(2051) J8Bx1、寧波(2239) J7Ex1、長興(2039) J10x1

台湾側：

新竹(2645) Mir2x2、清泉崗(CCK:2646) FCK1x2、嘉義(2746) F-16x2、馬公(2647) FCK1x1、

第1活動セグメント(先攻は中国)

中国側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

中国側は2匹目のドジョウを狙って、主力のTF1を台湾沿岸に隣接させ航空基地への近接攻撃を執行します。

- ・TF1が佳山(2846)の航空基地に対して近接戦闘を行う。結果は効果無し。
- ・TF5の残存部隊は上海方面に敗走。
- ・TF3は台湾海峡方面に北上を継続。

台湾側第1活動セグメント 活性化「航空機」

台湾側は夜間によって生じたCAP網の穴を付きミサイル基地に対する空爆を行いました。

- ・嘉義(2746)のF16x1で0335のミサイル基地を爆撃。1打撃を与える。
- ・台南(2747)のFCK1x2で0335のミサイル基地を爆撃。効果無し。
- ・嘉義(2746)のF16x1で0335のミサイル基地を爆撃。1打撃を与える。これにより0335のミサイル基地は破壊されます。

第2活動セグメント(先攻は中国)

中国側第2活動セグメント 活性化「潜水艦」

中国側は前ターンに引き続き台湾封鎖を崩さない程度に、付近の台湾艦艇に攻撃を加えます。

- ・SS366が台湾側TG5を雷撃、LANYANGを撃沈、TGIはユニットが1隻になりグループは解散します。
- ・SS320が単艦になったCHIYANGを雷撃、ステップロスさせます。
- ・SS321が台湾軍TF1に対して雷撃、Cangchienをステップロスさせます。

台湾側第2活動セグメント 活性化「水上艦艇」

このセグメントの台湾側は兵力の再編成のために一端自軍港湾に集結します。唯一、TF1が移動開始時にSS321に大してASW攻撃しますが失敗します。

第3活動セグメント(先攻は中国)

中国側第3活動セグメント 活性化「航空機」

・H6H x2 にて佳山(2846)に対する2 波に渡る巡航ミサイル攻撃を実施し、2 損害を与え航空基地を破壊。

その他は、夜間ターンのために活発な行動は起こせません。

夜間攻撃能力を持たない航空ユニットは、夜間ターンでは空対空力「-2」、爆撃力「-20」の修正が加えられます。中国側には夜間攻撃能力を持つ航空ユニットが少ないので、防空のために新鋭機をCAPに上げる必要があり、攻撃に回す部隊は少数になります。

台湾側第3活動セグメント 活性化「潜水艦」

HailungがTF1を雷撃しますが、効果無しでした。

台湾側は米軍潜水艦を巧みに中国側TFや潜水艦に隣接する様に移動させ、索敵マーカーが外れるのを防いでいます。直接的な雷撃より、この方が効果的と言えます。

夜間ターンですので、燃料フェイズに各艦艇の燃料ボックスにチェックを1つ入れ、修理フェイズに損害を受けている基地の損害数を1減少させます。しかしながら、破壊された基地は回復できませんので、可能な限り損害を与えた基地は夜間ターンまでに破壊してしまった方が効率が良いです。

次に、戦略索敵離脱フェイズとなり、敵の索敵ゾーン内に存在していないユニットの上から戦略索敵マーカーを取り除きます。もし、敵の索敵ゾーン内に存在していたとしても、戦略索敵マーカーは局地索敵マーカー面に変更されます。なお、潜水艦のみは敵のASW力の合計が「6」以上存在するヘクスに隣接しなければ、戦略索敵マーカーが取り除かれ、「6」以上のヘクスに隣接していた場合は戦術索敵マーカー面に変更されます。

勝利ポイントフェイズ

第3ターンの勝利得点損害

中国側：艦艇撃沈(「LANYANG」「CHIYANG」)=+6VP

航空基地破壊x1=+5VP

航空機破壊(F16x2)=+6VP

台湾封鎖=10VP

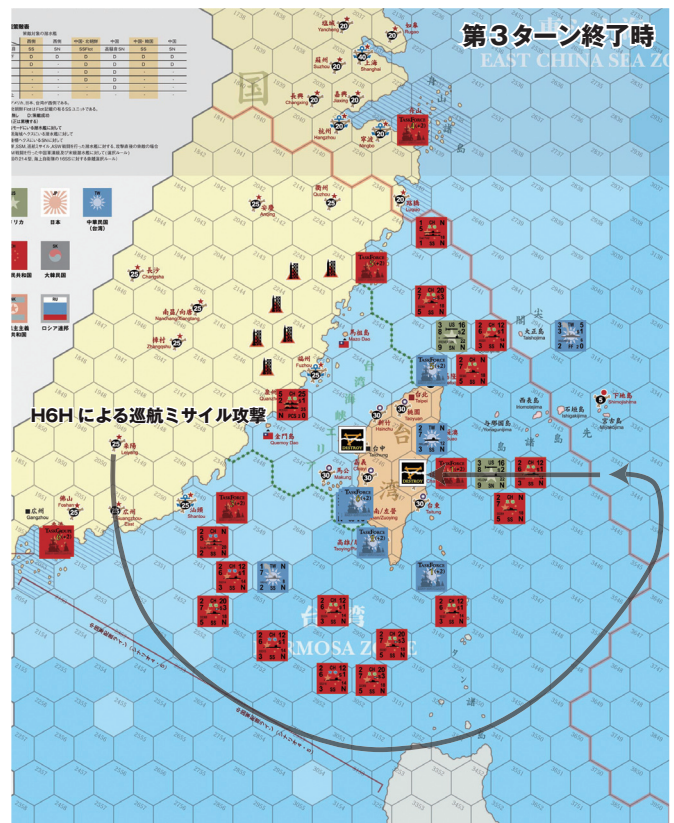
台湾側：艦艇撃沈(FF「LANGHOU」「LIANYUGANG」、SS「EastFlot1」「SS322」CO「Flot2」「Flot3」CS「QINGDAO」)=6VP、ミサイル基地破壊x1=-3VP

従って、終了時のVPは+58VPとなります。

プレイヤーコメント

台湾プレイヤー：航空基地がまた一つ破壊された。非常に痛い打撃である。米軍の来援を頼まなければならなくなってきた。次の戦略任務はできるなら、という程度にせざるを得ない。艦隊はだいぶすり減って来たが、ラファイエット級、キッド級からなる強力部隊TF6の編成を行うことができた。先手がとれたらうまく活用したい。

中国プレイヤー：このターンは夜間と言うこともあり、全体的に活動は低調だったが、航空ユニットの巡航ミサイル攻撃で更に1基地を破壊することに成功した。しかしながら、TF1による艦砲射撃は失敗してしまい、TF1が非常に危険な位置に残っているので先手を取れないとまずい。



第4ターン

開戦2日目のAMターンです。増援の登場後、1ターン目と同様に戦略航空作戦フェイズが行われます。

中国側の弾道ミサイル攻撃は基地を1ヶ所破壊されているので判定は5回ですが、航空基地への打撃はありませんでした。

戦略航空作戦任務割り当て

中国側：

・台湾ゾーン：J10x1、J11x1、J7Ex1

台湾側：無し

台湾側は思い切って、戦略任務への割り当てをやめ、活動セグメント中の行動に航空機をつぎ込みます。新鋭機を張り込んだ中国側は肩すかしを食らったことになります。もちろん台湾側も現状で中国側のTFには索敵マーカーを保持しており、無理に戦略索敵マーカーを置く必要が無いことに裏付いており、米軍原潜や台湾の潜水艦を上手く使って敵TFの索敵状態を維持した効果がここに出ています。

CAP割り当て

中国側：

塩城(2037) J8x1、如皋(2136) J7x1、長興(2039) J7x1、衢州(2241) J7Ex1、樟村(2046) J7Ex1、佛山(2051) J8Bx1、寧波(2239) J7Ex1、南昌・向唐(2045) J7x1、汕頭(2349) J7x1、広州(2150) J7x1、

台湾側：

新竹(2645) Mir2x2、嘉義(2746) F-16x2、馬公(2647) FCK1x1、

第1活動セグメント(先行は台湾)

台湾側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

台湾側は先手必勝と、全ターンに編成したキッド級及び台湾版

ラファイエット級の康定級を主力するTF6を北上を続ける中国軍TF3に隣接させSSM攻撃します。

台湾側は満を持して、全館が弾薬ボックスを3マス分使用する最大射撃を行うことを宣言します(参加した台湾側の艦艇のSSM弾薬ボックスは4マスです)。最大射撃の効果で、台湾側艦艇のSSM力は2倍となり、総計で144火力での攻撃となります。

目標判定で台湾側は、イージス艦を含むスタック前半分を目標にできなかったで、最大の火力を持つ「South Flot」とその後ろに存在していたFF「YICHANG」「XAIANGFAN」を狙います。

余り多くの艦艇を目標にすると、防御戦時に足される近接戦闘力が増えるので、確実を期した配分です。イージス能力持つ艦艇をまだ残している中国側TF3の防御戦闘の結果は「-5」と防御修正はまずまず強力でした。

戦闘結果は「South Flot」への攻撃の目は「0」で修正後「-5」で効果無し、「YICHANG」へは修正後「-2」でステップロス、XAIANGFANへは修正後「2」で撃沈の結果となります。

中国側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

先手を取られた中国側もお返しばかり水上艦艇で攻撃します。TF3は台湾側TF6を攻撃しますが、強力な広域AA力(20火力)を持つTF6へのSSM攻撃は不利と見て、近接戦闘を宣言します。

水上艦艇同士の近接戦闘の場合には、防御戦闘には広域AA力は使用されず、攻撃目標となる艦艇を自由に選択できますが、基本的には攻撃を受けた側も反撃が可能で、運が悪いと自軍は攻撃できずに一方的に相手からの攻撃を受けるだけで終わったり、相手側の攻撃を受けた後に攻撃することになるリスクがあります(もちろん、一方的に自軍だけが攻撃する可能性もあります)。

この戦闘での戦闘順番の判定はなんと「1」で攻撃順番は「中国側」の一方的な攻撃となります。中国側はここでFlotは集中射撃(SSMを2ボックス分消費)、その他の艦艇は最大射撃(SSMを3ボックス分消費)。近接戦闘でも「集中射撃」の場合には近接戦闘力1.5倍、「最大射撃」の場合には近接戦闘力が2倍となります。

中国側の近接戦闘力合計は232となり、中国側はKeelung及びSuaoに最大の90火力を割り振り、残りをSHENZHENに割り振ります。防御戦闘はAA力で修正後の出目が「8」で結果は「6」となります。

それぞれの結果はKeelungへの目は修正後「-3」でステップロス、Suaoへの目が修正後「-2」でこちらもステップロス。SHENZHENへの目は修正後「-1」で「1」となり、損害はありません。中国側は更に泉州のPCS201で台湾側TF6をSSM攻撃しますが、これも強力な対空火に阻まれ効果がありませんでした。

TF1は北上し東シナ海ゾーン先の島諸島海域に入ります。完全に日本の領海を侵犯しています。

第2活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第2活動セグメント 活性化「航空機」

台湾側はTF3への爆撃のために、協同航空作戦でCAP任務に就いていない航空機をかき集めます。

このMir2 x1、F16 x1、F5x2(空対空力23、爆撃力40)のスタックは、中国側TF3への向けての移動中に中国側CAP(J7 x1、J8B x1、J7 Ex1;合計空対空力17)との空戦が発生、CAP「1:2」の空戦の結果は「0/0r」で防御側が帰投となります。

中国側第2活動セグメント 活性化「航空機」

中国側は取えて戦略航空任務への投入を控えた虎の子Su30とSu30MKK2にエスコートさせたH6爆撃機で台湾の馬祖島への爆撃を試みます。台湾側はF16 x3のCAPでこれを迎撃します。

長距離戦闘の射撃では両軍ともに損害は出ず、空対空戦闘の結果は「0/1r」でした。中国側はSu30MKK2がステップロスを受け帰投することになります。通常空対空戦闘では損害を受けるユニットを相手側が決定する為、高性能な機種から損耗して行き

ます。

中国側は馬祖島への第2波の攻撃としてJH7 x2.5ユニット(対空x1、対地x1.5)を協同航空作戦で移動させますが、台湾側CAPの迎撃を受けます。空対空戦闘が行われるヘクスが中国側のCAP範囲内だった為、そのヘクスにCAPによる空対空戦闘が可能なCAP任務に就いている中国側航空ユニットも空対空戦闘に参加します。

長距離空対空戦闘の結果、中国側はJ7が1ステップの損害を受けます。

残った中国側がJH7x 2.5、J8B x1、J7E x1、J7 x0.5(22空対空力)、台湾側がF16 x3、Mir2 x1.5(50)となり戦闘比はCAP「2:1」で、戦闘結果は「0/3r」となります。3ステップロスは全てJH7ユニットに割り振られます。JH7は2ユニットがステップロス、1ユニットが除去されます。

第3活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第3活動セグメント 活性化「潜水艦」

・HAILOUが中国側TF3を雷撃、FF「YULIN」がステップロス。
その他の潜水艦は探知維持のために敵潜水艦へ隣接します。

中国側第3活動セグメント 活性化「潜水艦」

中国側は、台湾封鎖に必要な潜水艦数を減らした上で、余剰になった艦を台湾艦艇への攻撃に向かわせます。台湾封鎖を優先させている為、大規模な攻撃には至りません。

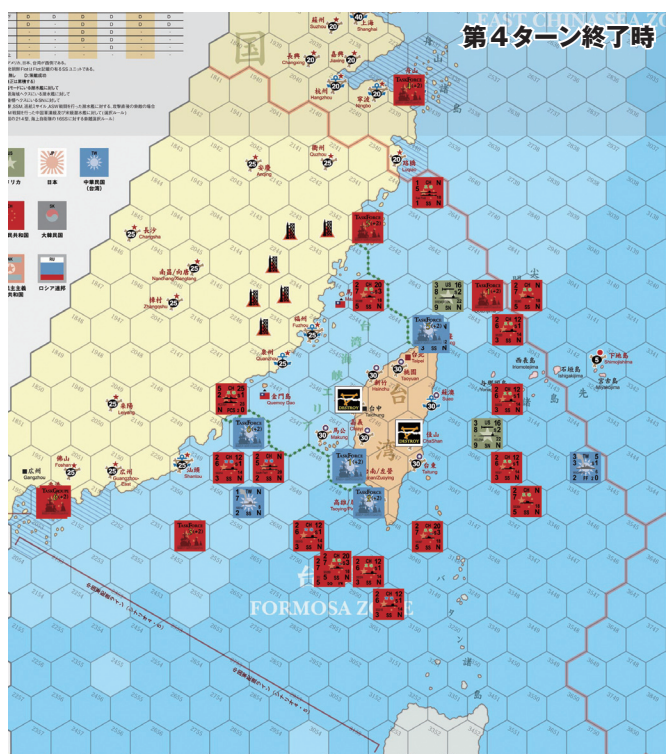
・SS369が台湾側TF3をSSM攻撃、FF「CHENDU」がステップロス。
・SouthFLOTが台湾側TF6を雷撃、失敗します。更に戦闘後の索敵で探知されます。
・SS314が台湾側TF6を雷撃、失敗します。

勝利フェイス

中国側:台湾封鎖 +10VP

台湾側:艦艇撃沈(FF「XAIANGFAN」=-1VP、航空機(JH7x1)=-1VP

従って、終了時のVPは+66VPとなります。



プレイヤーコメント

台湾プレイヤー:CAP戦闘の大戦果により航空脅威は減少した。しかしゼロにはなっていないので引き続き Mir x2、F16 x2、FCK1 x1によるCAPを継続する。艦艇については当初の計画に反し艦隊決戦に走りがちではあるが、結果オーライだろう。南海艦隊に対する全力射撃が効果無しだった点は残念であるが、キッド級が生還したので良しとする。あとは補給をうまく受けれるだろうか。

中国側プレイヤー:空対空戦闘にて5ステップ分を失い、通常のCAP網の維持にも支障が出る事態になってしまった。このターンより米軍登場の可能性があるので、防空網の維持は重要である。台湾海軍主力が台湾海峡内に存在するので、引き続き撃滅に努める。なお、米海軍が登場した場合にはなんとしても機動部隊の台湾海峡への移動を遅延させるために全力を尽くす。

第5ターン

CAP任務

中国側:

塩城 (2037) J8x1、如皋 (2136) J7x1、長興 (2039) J7x1、衢州 (2241) J7Ex1、樟村 (2046) J7Ex1、佛山 (2051) J8Bx1、寧波 (2239) J7Ex1、南昌・向唐 (2045) J7x1、汕頭 (2349) J7x1、広州 (2150) J7x1、

台湾側:

新竹 (2645) Mir2x2、嘉義 (2746) F-16x2、馬公 (2647) FCK1x1、

登場判定の結果、このターンに米軍空母機動部隊が登場します。

第1活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

- ・TF6は補給の為、馬公(2647)へ移動。SUAO (2845)のPCS201にて中国側TF1をSSM攻撃します。目標判定ではソプレメンヌイ級を含む前方となり、台湾側は「FUZHOU」のみを目標とします(30SSM力)。中国側の防御戦闘結果は「4」でしたが、台湾側の修正後の目は「4」、戦闘結果は「4」なので、「FUZHOU」が撃沈されます。
- ・TF5は中国側TF1をSSM攻撃、DD「TAIZOU」に損害を与えます。
- ・TF1はSouth FlotをASW攻撃し損害を与え、移動後に中国側PCS201をSSM攻撃し撃沈します。
- ・米空母機動部隊は、東シナ海と日本の境界ヘクスに登場、沖縄近海(3638)まで移動します。そこから巡航ミサイル攻撃を行い中国本土のSSM基地1ヶ所を破壊、1ヶ所に損害を与えます。補給艦艇は登場ヘクスに置き去りにされています。

中国側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

- ・TF3が台湾側TGIをSSM攻撃し、台湾側FF「Chengkung」「Chikuang」を撃沈します。この結果、グループは解散しヘクス内には「Pancho」が単艦で存在することになります。
- ・TF1は高速移動で次の移動で米空母機動部隊に隣接可能な位置まで接近します。

第2活動セグメント(先攻は中国)

中国側第2活動セグメント 活性化「潜水艦」

中国側は、更に台湾の封鎖網を狭め潜水艦を抽出、米空母機動部

隊の進路妨害と台湾海軍への攻撃にあてます。

- ・SS320が台湾側PCS201を雷撃、1損害を与える。
- ・SS321が台湾側PCS201を雷撃、除去する。
- ・Southflotが「Pancho」を雷撃、損害を与える。
- ・SS314が「Pancho」を雷撃、撃沈する。

台湾側第2活動セグメント 活性化「航空機」

台湾側は、登場した空母機動部隊の艦載機と台湾空軍部隊での集中爆撃を中国側TF1に対して決行します。

- ・空母の艦載機(F18Cx2、F18Ex2)が中国側TF1に対してSSM攻撃(160火力)、目標判定の結果ソプレメンヌイ級が存在しない側が目標となったために、FF2隻に火力を集中、FF「MAINYANG」「JIXIN」を撃沈
- ・協同航空作戦を行うMir2x1、F16x1(共に対地任務)が中国側TF1を爆撃、対空火力でMir2が1ステップを失うがDD「NINPO」を撃沈。
- ・台東(2946)のF5x2(40爆撃力)が中国側TF1を爆撃、DD「TAIZOU」を撃沈

中国TF1は主力艦艇のソプレメンヌイ級2隻を失います。

第3セグメント(先攻は台湾)

台湾側第3活動セグメント 活性化「潜水艦」

- ・米原潜Bremertonが中国軍FF「Lusun」を雷撃、ステップロスさせます。
- ・米原潜Helenaが中国軍TF1を雷撃、「PUTIN」を雷撃、撃沈します。
- ・HAULUが中国軍FF「YUX」を雷撃、ステップロスさせます。

攻撃制限が解除された米原潜は、積極的に隣接する中国艦艇を攻撃します。

中国側第3活動セグメント 活性化「航空機」

全ターンに航空部隊に多大な損害を受けた中国側は、このターンには戦闘行動を行わず、実質的なパスとなりました。

勝利フェイズ

中国側: 艦艇撃沈(FF「Chengkung」「Chikuang」「Pancho」、PC「PCS201」)=+12
台湾封鎖+10VP

台湾側: 艦艇撃沈(DD「FUZHOU」「NINGBO」FF「MAINYANG」「JIXIN」「PCS201」=-9、ミサイル基地破壊1ヶ所=-3VP
従って、終了時のVPは+76VPとなります。

プレイヤーコメント

台湾プレイヤー:なんと、中国の主力艦隊が空母機動部隊に接近してきた。次のターンの最初のセグメントで先行を取られると、損害が出て勝利条件的にやっかいなことになる。先手を取ったら先制攻撃を行うことにする。

中国側プレイヤー:何とか空母機動部隊に接近することができた、どのみち主力部隊は空母機動部隊の空襲で大損害を受けることは明白なので、座して死を待つよりは一撃与えて散らせてやろう。うまくいけば1ターン分の足止めになるかもしれない。どのみち第1セグメントの先攻を取らないと苦しいのだが……。



第6ターン

夜間ターンになり、昼間戦闘機を使用できない中国側のCAP網には致命的な穴が幾つか存在します。

CAP割り当て

中国側：

衢州 (2241) J7Ex1、樟村 (2046) J7Ex1、佛山 (2051) J8Bx1、寧波 (2239) J7Ex1

台湾側：

新竹 (2645) Mir2x2、嘉義 (2746) F-16x2、馬公 (2647) FCK1x1、

第1セグメント(先攻は台湾)

台湾側第1活動セグメント

幸運の女神は台湾側に微笑みました。空母機動部隊は中国側TF1隣接し先手必勝とばかりSSM飽和攻撃ルールを用いて全SSMボックスを消費して攻撃します。隣接して索敵される必要は無かったのですが、台湾海峡への接近のため敢えて隣接する事にします。この場合4ボックス全てを使用するので、SSM力は2.5倍となります。なお、一部のイージス艦にはSSMの装備がありませんが、ルール上、SSM未装備の艦艇もSSM戦闘を行ったものとして扱われ、同じ活動セグメント中に、SSM戦闘や近接戦闘を行えません(近接戦闘は戦闘の種類としてはSSM戦闘として扱われます)。

米軍SSM戦闘参加艦艇。

CG: COWPENS、SHILOH

DD: WILBUR、J.S.McCAIN、FITZGERALD、LASSEN、

各艦艇のSSM力は「8」なので、火力は2.5倍され120火力での攻撃となります。

対する中国側TFの艦艇は

DD:「HANGZHOU」「TAIZHOU」(ステップロス)

FF:「MAAANSHAN」「WENZHOU」「SANMING」「LUSHUN」(ステップロス)

攻撃目標はソプレメンヌイ級を含まない側となったので、「Lushun」「SANMING」「Maanshan」に攻撃が集中します。結果、「Lushun」が撃沈、「Maanshan」がステップロスします。

空母機動部隊は、台湾海峡方面に移動します。移動後に空母機動部隊は更に巡航ミサイル攻撃を行い、ミサイル基地を1ヶ所破壊します。

中国側第1活動セグメント

中国側は先行を取れませんでした、残存艦艇で空母機動部隊を攻撃します。米軍側が移動中に隣接してきたので、空母機動部隊にも索敵マーカーが置かれ攻撃が可能です。

中国側は、広域AA力を持つ空母機動部隊へのSSM攻撃は不利として、近接戦闘を宣言します。攻撃順の目は5で中国側が先に攻撃を行い、米軍が後に攻撃します。

また、残りの弾薬2ボックス分を使用して集中射撃を宣言します。集中射撃により近接戦闘力が1.5倍になります(63火力)。空母を狙うには心許ない火力なので、イージス艦を目標にします。

防御側の防御戦闘の対空力は「16」で防御修正値は「5」となります。攻撃側の目は「4」で修正後の目は「-1」損害数は「3」で「STETHEM」がステップロスします。

米軍は先ほどの攻撃でSSMを撃ち尽くしているので、近接戦闘力からSSM攻撃力を引いた値での戦闘になります。米軍側の近接戦闘力は「42」で「36」と「6」火力で、「HANGZOU」と「SANMING」を攻撃します。結果、「HANGZOU」と「SANMING」が除去されます。

第2活動セグメント(先攻は中国)

中国側第2活動セグメント 活性化「潜水艦」

中国側は、封鎖の維持を確実にするために、攻撃に向かわせていた潜水艦を二重の封鎖網構築のために移動させ、既に隣接しているユニットに対し、行きがけの駄賃で攻撃します。

・SS364が「WUCHANG」を雷撃、撃沈します。

台湾側第2活動セグメント 活性化「航空機」

台湾側は中国側TF1に航空攻撃します。

- ・空母よりF18C x2、F18E x2で爆撃「WENZHOU」を撃沈
- ・F16 x1が中国側TF1を爆撃、「MAANSAN」を撃沈

それとは別に、CAPが届かないミサイル基地を爆撃します。

・F16 x1がミサイル基地を破壊。

第3活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第3活動セグメント 活性化「潜水艦」

索敵を維持する為の移動と、台湾海峡方面への移動を行うに留まります。

中国側第3活動セグメント 活性化「航空機」

航空部隊の実質的な戦力が失われているために、実質的にはパスとなっています。

勝利フェイズ

中国側:艦艇撃沈(FF「WUCHANG」)=+3VP

台湾封鎖 +10VP

台湾側:艦艇撃沈(DD「HANGZOU」FF「LUSHUN」「SANMING」)

「MAANSHAN」「WENZHOU」=-7VP
ミサイル基地破壊 2ヶ所=-10VP
従って、終了時のVPは+72VPとなります。



プレイヤーコメント

台湾プレイヤー:東海艦隊を米軍と台湾軍の協同攻撃で全滅させ、空母機動部隊への脅威は消えた。最大の山場は過ぎた。後はひたすらに大陸を叩いた上に、空母機動部隊の台湾海峡への突入を目指そう。未だ姿を見せない敵上陸船団は潜水艦、台湾艦艇を集中して迎撃にあたらせる。

中国プレイヤー:空母機動部隊への攻撃により、東海艦隊が全滅してしまった。その為、海上戦力が一気に減少してしまったが、結果として空母部隊の足止めには成功した。VP的には封鎖が継続しているので、守勢に努めて逃げ切りを狙いたい。

第7ターン

最終日です。お互い航空ユニットへも損害が出ているので、双方とも戦略航空任務に投入する航空ユニットに余裕がありません。その上で戦略任務に投入されたのは、

中国側:
台湾ゾーン:無し

台湾側:
台湾ゾーン:Mir2x1

今度は、台湾側が肩すかしを食らうことになりました。中国側は完全に守勢に入り、航空ユニットは作戦セグメント中の行動に集中させるようです。

CAP任務

中国側:
塩城 (2037) J8x1、如皋 (2136) J7x1、長興 (2039) J7x1、衢州 (2241) S30x1、J7Ex1
樟村 (2046) J11x1、J7Ex1、佛山 (2051) J8Bx1、寧波 (2239) J7Ex1、南昌・向唐 (2045) J7x1
汕頭 (2349) J7x1、広州 (2150) J7x1

台湾側:
新竹 (2645) Mir2x2、馬公 (2647) FCK1x1

第1活動セグメント(先攻は中国)

中国側第1作戦セグメント 活性化「水上艦艇」

- ・TF3は上海方面に移動を継続します。
- ・TF4は船山付近のCAP範囲下でへ移動し、上陸船団との合流準備にかかります。

台湾側第1作戦セグメント 活性化「潜水艦」

台湾側の潜水艦は台湾海峡内に移動を行い、中国側潜水艦の進入に備えます。

米原潜は台湾海峡方面へ移動を続けながら、接敵可能な中国側潜水艦に攻撃します。

第2活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第2作戦セグメント 活性化「水上艦艇」

空母機動部隊は台湾海峡方面へ移動を継続します。移動後、ミサイル基地への巡航ミサイル攻撃しますが、1損害を与えるに留まります。

台湾軍艦艇は損害を避けるために、自軍港湾へクスに移動します。

中国側第3活動セグメント 活性化「航空機」

行動はありません。

第3活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第3活動セグメント 活性化「航空機」

上海付近の上陸船団を空母機動部隊の艦載機が攻撃します。

F-18E x2 (対空)、F-18C x2 (対地)の攻撃隊を、上海地区のCAP部隊 (S30 x1、J7E x1) が迎撃します。長距離空対空戦闘で中国側は1損害を受け、Su30ユニットがステップロスします。これで空対空力は米軍「20」対中国軍「15」の1:2となります。出目は「4」で両軍帰投となります。

台湾空軍はミサイル基地の空爆を行います。CAPとの戦闘になります。

台湾側 F16 x2 (対空x2) FCK1 x2 (対地x2)、中国側 (J11 x1、J7E x1、J7 x1) で長距離空対空戦闘の結果、中国側はJ11が1ステップロスを受け、通常の空対空戦闘の戦闘比は「1:2」で戦闘結果はまたも「0r／0r」で両軍帰投となります。

中国側第3活動セグメント 活性化「潜水艦」

台湾封鎖を維持するために、一線で封鎖を行う部分の補強の為を移動を行った以外は攻撃を行わず、敵への探知の維持と、置かれている探知マーカーを外す為の移動に専念します。

勝利フェイズ

中国側:台湾封鎖 +10VP

台湾側:無し

従って、終了時のVPは+82VPとなります。

プレイヤーコメント

台湾プレイヤー:時間が不足してきている。速やかに空母機動部隊を台湾海峡に突入させなければ。

中国軍側:前ターンは防御に徹したが、航空部隊の新鋭機に大きな打撃を受けてしまった。このターンが正念場となるだろう。囧の揚陸部隊の移動を開始する。

第8ターン

CAP割り当て

中国側：塩城 (2037) J8x1、如皋 (2136) J7x1、長興 (2039) J7x1、衢州 (2241) S30x0.5、J7Ex1
樟村 (2046) J11x0.5、J7Ex1、佛山 (2051) J8Bx1、寧波 (2239) J7Ex1、南昌・向唐 (2045) J7x1
汕頭 (2349) J7x1、広州 (2150) J7x1

台湾側：新竹 (2645) Mir2x2、馬公 (2647) FCK1x1

第1活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第1活動セグメント 活性化「航空機」

台湾側は禍根を残さないために、ゲーム開始時から香港で待機している中国側揚陸部隊に対して総力を挙げ空爆を行いました。

第一波：台南 (2747) より FCK1 x3 (対空x2、対地x1)

この部隊は、中国のCAP (J8B x1、J7 x2) の迎撃を受けます。戦闘結果は「0／0r」となり空爆は失敗します。

第二波：協同航空攻撃でF16 x1 (対空)、F5 x2 (対地x2) が空爆を行います。F5は通常の移動では航続距離が足りないために、高々度空移動を宣言し移動力を4増加しての爆撃となります。

中国側は前回同様のCAPが迎撃にあたります。長距離空対空戦闘での損害は出なかったため、戦闘比は台湾側「13」、中国側「17」で「1:1」となり、出目が「0／1r」となり、台湾側はF16が1ステップロスし、帰投します。

空母機動部隊の艦載機もミサイル基地への空爆を行います。F18E x2 (対空x2)、F18C x1 (対地)、FA18G x1のスタックに対し中国側は地域CAPの総力を挙げた迎撃を行います (J7E x1.5、J7 x1、J11 x0.5、Su30 x0.5)。

長距離空対空戦闘ではEW機のFA18Gが参加している為、米軍には+2、中国軍には-2の修正が付き、結果は中国側に1ステップロス、米軍には損害が出ません。運悪くSu30が除去されました。

続く空対空戦闘ではアメリカ側「26」空対空力に対して中国側「27」となり「1:1」ですが、米軍にはEW機が参加しているので、出目-2の修正が付きます。戦闘結果は「0／0r」となり、米軍スタックは帰投します。

第2活動セグメント(先攻は中国)

中国側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

- ・舟山の上陸船団x3は自軍CAP下でTF4と合流し、次ターンの移動で台湾本土ヘクスへの移動を可能にします。
- ・TF3もTF4との合流が可能な様に同じヘクスへ移動します。

再編成後のTF編成は以下になります。

TF3:FF「YUX」「HUAIHAN」(共にステップロス)
CS:WEISHANHU

TF4 (上陸部隊)：

DD「GUANGZHOU」「WUHAN」
FF「ANQING」「TONGLING」「HUAINAN」「WEISHANU」「YULIN」
(ステップロス)「YICHANG」(ステップロス)
CO「South」
AA「T071」「FLOT4」「FLOT5」「FLOT6」

台湾側第2活動セグメント 活性化「潜水艦」

米原潜は台湾海峡方面の移動を続けます。移動後に「HELENA」は中国のミサイル基地に対する巡航ミサイル攻撃しますが失敗します。

第3活動セグメント(先攻は中国)

中国側第3活動セグメント 活性化「潜水艦」

能動的な攻撃は行わず、台湾封鎖網の配置の調整のみに留まります。

台湾側第3活動セグメント 活性化「水上艦艇」

- ・空母機動部隊は次ターンに台湾海峡への突入な位置へ移動します。移動後、巡航ミサイル攻撃で中国側ミサイル基地を破壊します。
- ・台湾海軍のTF1とTF5が台湾海峡内に移動します。

勝利フェイス

中国側：台湾封鎖 +10VP

台湾側：航空ユニット除去 (S30x1) =-3VP

ミサイル基地破壊 1ヶ所=-5VP

従って、終了時のVPは+74VPとなります。

プレイヤーコメント

台湾プレイヤー：空母機動部隊は台湾海峡直前まで被探知も構わず前進してきた。後は手番がうまく廻れば問題はない。天佑を確信し突入しよう！

中国軍：台湾海峡方面へ移動させた上陸部隊を台湾へ移動させるか入港させるかが引き返すかが迷われる。AA3隻の9点はこの状況下では厳しい。

第9ターン(最終ターン)

いよいよ最終ターンです。

CAP割り当て

中国側：衢州 (2241) J7E x1、樟村 (2046) J11 x0.5、J7E x1、佛山 (2051) J8B x1、寧波 (2239) J7Ex1
台湾側：新竹 (2645) Mir2 x2

第1活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

補給を終えたTF1が中国側TF4をSSM攻撃します。台湾側はSSM飽和攻撃 (SSM弾薬4ボックス消費) を宣言し、2.5倍のSSM力で攻撃します。目標判定では、上陸船団が含まれないTF下半分が目標となったので、下半分唯一のAAユニット「T071」にSSMを集中し撃沈します。

続いてTF5が中国側TF4に対して近接戦闘を行います。近接戦闘を選択したのは確実に上陸船団を攻撃する為です。近接戦闘解決の判定は「8」で中国側攻撃→台湾側攻撃の順での戦闘解決となります。

この戦闘で台湾側はFF「Ningyang」「Yiyang」「Yuenhei」が撃沈され、中国側は「FLOT4」が撃沈されます。

- ・空母機動部隊は、一直線に台湾海峡に進入し2646へ移動します。

中国側第1活動セグメント 活性化「水上艦艇」

中国側はTF4を台北の隣接ヘクス(26444)に移動させます。
TF3は舟山方面に撤収します。

第2活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第2活動セグメント 活性化「潜水艦」

中国軍TF4に接敵可能な潜水艦を移動させ、攻撃します。
米原潜「Bremerton」「Helena」、台湾の「HAIHU」が雷撃を行います
すが「FLOT5」をステップロスさせるに留まりました。

中国側第2活動セグメント 活性化「航空機」

中国側は航空機による攻撃を検討しますが、ステップロスの航空機が多く除去の可能性が高いことから、パスとなります。

第3活動セグメント(先攻は台湾)

台湾側第3活動セグメント 活性化「航空機」

中国軍TF4に対する空母艦載機による爆撃が行われます。

第一波:F18C(対地)x2、F18G x1で爆撃、FLOT6を撃沈します。
第二波:F18Ex1 防御戦闘で1ステップを失いますが、FLOT5を除去します。

台湾空軍は中国本土への空爆を行います。南昌(2045)へF16(対空)x1、F5(対地)での空爆を行います。CAP(J11 x0.5、J7E x1)との戦闘は「0r/0」となり、この地域のCAPが排除しますが爆撃自体は失敗します。

CAPが無くなったところにFCK1を1ユニットずつ4波に分けてミサイル基地を爆撃し、ミサイル基地2ヶ所を破壊します。

中国側第3活動セグメント 活性化「潜水艦」

台湾海峡内の台湾側TFを接敵可能な潜水艦で雷撃します。
・SS365で台湾TF6のSUAOを雷撃、撃沈します。
・SS364で台湾TF6のKEELUNGを雷撃、撃沈します。
・SS320で台湾TF6のMAKUNGを雷撃、ステップロスさせます。
・SS314でCHANGDUを雷撃、撃沈します。

最終勝利得点計算

中国側:
艦艇の除去:DD「Suao」「Keelung」FF「Ningyang」「Yiyang」「Yuenhei」「Changdu」=18VP
台湾封鎖:10VP

台湾側
艦艇の除去:「FLOT4」「FLOT5」「FLOT6」=-9VP
ゲーム終了時に台湾海峡に存在する巡航ミサイル弾薬を残した米艦艇数(x11)=-33VP
ミサイル基地破壊(x2)=-6VP
ゲーム終了時に台湾海峡に空母が存在する=-10VP
最終的なVPは44VPとなり、中国側の限定的勝利となります。

プレイヤーコメント

台湾プレイヤー:結局、中国側の逃げ切りを許してしまった。主な理由としては9ターン全てで封鎖が継続したことであり、中国側の水上艦艇への対応に注力しすぎた事が挙げられる。序盤からある程度の割り切りで中国側潜水艦の除去にもっと注力すれば、潜水艦破壊の得点と封鎖によるVPを失わずに済んだかもしれない悔やまれる点である。

中国プレイヤー:何とか逃げ切ることができたが、水上部隊及び航空部隊はほぼ壊滅、潜水艦隊だけが健在という、昔ソ連太平洋艦隊に対して言われていたことが、そのまま再現されている。やはり、海軍戦略の根本が同様だと何処の国でも同じような事になると妙に感心してしまった。

